磐城新聞
（十七日夕刊）

休刊　大祭日第一第三日曜
定價　壹枚二錢、壹ケ月五十錢、郵税十錢
廣告料　一行五十錢指定廿錢増
發行兼編輯印刷人　遠沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社

或る日曜（中）

平 三川田一郎

それきり眞一はKとは遭はないのだ、そのKがS町に居るといふ事はかねて聞いてゐた

T町に來てから何時か訪ねて見やうとは思つてゐたのだが行く機會がなかつた

それを床の中でゆくりなくも思ひ付いたのであつた

眞一は彼れを育て上げた祖母を失つてから彼れの全體を投げ出してよりかゝるといつた樣な人が無くなつた事を非常に寂しく感じてゐる、絶對の愛情と以て彼れの凡てを受け容れて呉れる人が欲しいのだ

彼れの周圍には幾多の交友はある、けれどもそれは仕事の上の又義務の上の交際がさもなければ金錢で解決の出來る交際でさういふものをはぎとつた單なる人間としての交際は果たしてどれだけあるか疑問である

さういふ事を考へる時に眞一はいひ知れぬ寂寞を感ずるのである

さういつた境遇の眞一がKの事を思ひ出して矢も楯も堪らく遭ひたい樣な氣になつてS町行きを決めたのである、眞一のこの感傷的な氣分は朝食を濟ましても中々薄れては居なかつた

彼れは突然、S町を行妻に話した、さういふ氣まぐれな行動が眞一には平常多いので妻は別に驚きもしなかつた

汽車中の人となつた眞一で夢の國にでも行く樣なロマンチツクな氣分で停車場で買ひ込んだ新聞も見やうとはしなかつた

S町の停車場は眞一には無論初對面である、ホームのブリツヂを登つて突きあたりに改札があつてそれから出ると直ぐ公衆のブリツヂで線路の兩側に人家がある

右か左かも判らないので、かねて聞いてゐた長江町はと改札係に尋ねた[illegible]改札係クド〳〵[illegible]

長江町に行く道を教へて呉れたが一とは覺ねては居なれなと右か左かさへ判ればよかつたのだ、教へられた右手にブリツヂを降りた、乘合自動車もあつたが眞一はわざとブラ〳〵歩いてゐた行く手に高く東洋一を誇る大銅山の煙突が天を摩してゐた

S町は鑛山町である新開地らしい氣分が停車場前から漲ぎつてゐた、鑛山行の電車の停留所とは鑛山に使ふのだらう膨大な器械のころがつてゐるのも珍らしかつた

電車線の踏み切りのところに町內案內圖が掲げてあつた、眞一はそれによつて長江町を搦かした、大通りには見付からなかつた、漸く隅の方に細い線で現されてゐるのを見出したそしてそこに行く大體の見當をつけて歩き出した

裏通りの可成貧弱な通りであつた、新しく砂利を敷きつめた新道が橫ぎつて居たりして新開地らしい氣分が一層濃厚であつた、頭に手拭を卷きつけた鑛夫らしい人とが通つてゐた

Kの現在姓である百澤といふのを左右に搦かし求め乍ら進んで行つた

かの人家がたてこんで來たと思つた頭右手の小奇麗な二階建の菓子屋兼洋物店といつた樣な店の日よけに白澤商店と書いてあるのが見つかつた、ハツと思つたが何さいふ理もなく直ぐ入つて行くのが躊躇されたそして

その儘その前を通り過ぎて仕舞つた丁度その時五十近いと思はれる老婦人が歩いて來た、その顏を見た時オヤツと思つた、それは古い記憶にあるKの母親にソツクリな顏であつた老婦人も眞一の顏をシゲ〳〵と見て行き違つた

眞一は後ろを振り返つて老婦人の行衛を見てゐたやがてその百澤と書いてある家に入つたのを見て眞一は凡てを了解した

明日の吉凶
舊暦四月十日　新暦五月十八日

△一白　浮かれ氣を押へ實利を主としはげめば發展すべし
△二黑　物事を輕く見るときは意外の失敗を招くべし
△三碧　行きつまらざる前に八方に目を配り用心すべし
△四綠　追ひ〳〵と吉に向へども進み過ぎぬやうにすべし
△五黃　運氣鬱結して解けず人のいざなひに乘るなかれ
△六白　徒らに奔走するよりも氣を養ひ時を待つべし
△七赤　不安に襲はるとも志しをかへぬ樣にすべし
△八白　他人の口論に卷込まれぬ樣すべし失ひ物注意
△九紫　一時の不平はあるとも午後は大吉たるべし

[illegible]（235）

渡邊默禪作　宮野歌春畫

官軍でも[illegible]の手苛めつけるも可哀想だと思つたものか遂に承諾を與へた、五月十八日が最終のページ草紅く土腥き活地獄怨を恣涙を血の記念碑たる五稜廓は堂々と繰込んで來た一大隊の薩兵に受取られ榎本松平大鳥の三將は洋服丸腰の儘悄然として敵の手に曳かれてうまる駕に乘せられて遠く東京に護送されて、梶原其他、殘兵五百餘人は一旦函館に移され次で秋田津輕兩藩預けとなつたが、此時沒收された刀劍は長持に二杯もあつたといふ、と此の話東京に送られた榎本等は丸の內大手前兵隊屯求の牢獄へ禁個せらる事二年七ケ月明治五年の正月になつてから函館清隆、黒田清隆が三條[illegible]勤命の嘆願といふより寧ろ手詰の談判をしたた影で首をつなぐ爭が出來同月六日赦免申渡、始めて天日の光りを見るに至つたが函館に殘つた連中はもつと早く明治三年五月悉く赦されて德川家へ引渡された、當時德川は殘涯なる天恩の下に靜岡縣知事として七十萬石の食祿を賜り宗廟を祀る事を得られたので此の連中を迎への爲[illegible]隆吉が函館に赴き十分[illegible]は同地で五十兩宛、[illegible]を與へて暇を遣し隨意退散せしめたが士分以下の者は船に乘せて東京に送り一時芝増上寺の宿坊に謹愼させて置いてそれから一ツ橋護持院が原の靜岡藩出張所今の高等商業學校所在地へ呼出し同じく五十兩の手當下解散させる事にした。其中に梶原も居た梶原はぐわえんとりであるので士の資格がないと認められたのでゐる。

と、梶原はその金を突返して自分の祖父が旗本であつた事を述べ靜岡藩士に狙入れて呉れと頼んだ出張所の役人はそんなあいまいの事で士籍に入れる譯にいかぬを拒んだ一言二言爭つ末、例の梶原式「ベランメー」と尻を捲つてどつかと胡座をかいた。「たい芋蟲明きやがれ、手めねッたちア先祖、代々將軍樣の御恩を受てゐながら君の恥を雪ぐ事も知らねえで大きな夢を吐かしやあ、コウ兄や」とつるりと片肌ぬいで右の腕を丁と叩いて「俺ッ達は是でも鐵砲玉と刀の下を遍な潜つて來て、將軍樣の爲に忠義をつくした男だせ、此の底、さあ此の底を見や、底に對して〳〵そんな言句を言はれた義理ぢやあるめえ、規則も平仄もあつなものぢやねえ規則てねのは主人の爲に死ぬ事だそれが判らねえか士にしろと言つたらしア、どうでもさせずにやおきやあしねえぞ」と痰唾を浴せがけた。「喧ましい」ッ役人もむつとなつた。

春向が澤山入荷いたしました
着尺モスリン
ナフトール着尺
セル
ネル
帶皮
其の他色々
どうぞ御用命を願ます
龜田屋　電話五七

廣告

上田醫院　平町南町　電話一二九番

藤沼醫院　平町紺屋町　電話五〇七番

毛糸
防寒用には丈夫で暖い
英國製毛糸
一オンス　十九錢　二十五錢
手藝材料
ハシモトヤ糸店　平町田町

新築落成
耳、鼻、咽喉科　氣管食道科（專門）
平町南町（舊診療所向電一七〇番）
大和田醫院　大和田郡司
自炊の便あり

レコードハ此のマーク！を
HIS MASTER'S VOICE
店員募集
肉聲のビクターレコード販賣店
會田時計店
平町四丁目（電話三六三番）

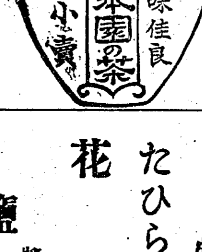
◆初夏の飲料◆
キリン　サツポロ　ビール
金線サイダー
平町四丁目驛通り
永山酒造店總發賣元
電話二〇七番

改正　片濱乘合自動車時間表

平發	江名發
五時三十分	五時三十分
六時三十分	七時
八時	七時五十分
九時	九時二十分
十時	十時三十分
十一時	十一時五十分
十二時二十分	一時
一時五十分	二時
三時	三時三十分
四時	四時四十分
五時二十分	五時四十分
六時三十分	六時四十分

平のりば　四丁目和泉屋前　新川町車庫
江名のりば　沖見屋　電話十四番　松屋
鈴木片濱自動車部　電話二一七　車庫呼出電話一四二

◎◎◎◎◎◎◎◎
根本園の新茶賣出し
四月廿二日より
香味馥郁たる新茶正に千金の値打あり長壽を欲する御人は召し上れ御早く
◎新茶は（ウイタミン）含有す多量に
平町四丁目
根本園茶店



外科
婦人科
內科
X光線科
外科一般　耳鼻科　花柳科
産科　人　外科
赤心堂病院
平町田町（電四七五）

獨逸ベルツ博士
SUZUKI NIPPON-SEIYAKUSHA
ベルツ丸
梅毒（ばいどく）と體毒（からだのどく）を切らず注射せず治す
◎梅毒。りん毒。疳毒。横痃。下疳。しつ毒。梅毒性リウマチス。ひゑ毒。せきずゐ。痔疾。腦梅毒。遺傳梅毒。惡性皮膚病其他
藥價　輕症用三圓。重症用五圓。頑固用十圓。根切徳用廿圓。試用二圓。一圓
地方一手特約店　平町五丁目角　山野邊藥局

貸地廣告
平町郡役所より税務署附近の新開地に五百餘坪の貸地があります、然かも完全な土盛でありますから流失其の他の憂ひ絶對になく商店、諸工場並に高級の住宅地として最もの適地を極く安値にお貸しいたします
御希望の方は電話なり戴けば社員がお伺りして親しく御相談に應じます
小名濱商事株式會社
平出張所
電話六〇三番　五四一番

外科一般（入院隨意）
內臟外科專門
花柳病科
平町六丁目（橋際）
木村外科醫院
電話三〇九

ヒゲタ醤油
宮內省御用達
銚子醤油株式會社
特約店　平町田町
廣瀨支店
電話五四番

內臟外科
骨關節外科　專門
藤本順

整形外科
産科
婦人科
院長　木村寅次郎

外科
婦人科
平町新川町
木村醫院
電話一六四番

安全第一
諸債券、公債ノ御用ハ迅速簡易ヲモツトートスル弊店ヲ精ニ御利用クダサイ
營業課目
勸業債券　復興債券　公債其他　兩替　金融
質物一般　取扱
多田井商店
平町大工町

特賣!!
たひら正宗　福島縣清酒品評會一等賞受領
花春　同　優等賞受領
鹽屋
醤油釀造元
山崎合名會社
電話一一〇番

平町けふの町會で 後任助役決定
反對論者もあつたが 結局遠藤長誠氏

平町助役問題は今十七日の町會に提案され伏見町長が最適任なりとして十二日加勢知事及伊藤內務部長に願出で無理に承認を得た女房役は本縣地方課主任屬である遠藤長誠氏と決し町會に諮り輸入さる事の反對論者も出てたが讃否を起立に問ひ結局反對者は四五の少數に止まり同氏に決定したが平町は近く市制さへ布かれんとする程の發展振りでありその矢先の助役として最も事務に堪能な人でなくてはならぬと極力物色の結果同氏に白羽の矢が立つに至つたもので氏は四十二歲の働き盛りで田村郡七郷村の出身大正二年八月田村郡書記を振出しに同四年十月には石川郡に轉任七年七月には西白河郡に榮轉上席郡書記となり十一年一月縣屬として縣地方課に入り後主任屬となり爾來引續き今日に至つたもので役人の勤續年限十五ヶ年に及び近く事務官に昇進するであつた

堂の前に櫻木

平町役塲では市內堂の前道路に吉野櫻の苗木を購入し十五日植付もすみ路を飾ることになつた

地均しも終り 平三校起工
土地交涉は難關

平町第三小學校は總工費七萬八千圓で三月下旬から埋立工事に着手最近では校舍建築敷地である二千四百坪の地ならしも大体終了したので近く校舍、建築に取りかゝることとなつたがたゞこゝに問題なのは校庭となる九百坪が二地主買收不承諾のために埋立が出來ずにあることでこれには當局も少からず手を燒いてゐることであるが當局では若し地主側が飽まで承諾せざる場合はやむを得ぬから土地收用法による買收をすると稱してゐるも實際は收用法を適用するにしても相當時日を要する問題なので結局は地主側の價格に應ずるものではないかと噂されてゐる

亂暴自動車
民家に亂入す

石城郡四倉町中町鈴木充治所有乘合自動車を運轉手鈴木某が運轉して十五日午後三時ころ同郡神谷村大字下神谷地內國道を疾走中運轉を誤り附近の民家に飛び込み柱を折つたが幸ひ乘客には別條なかつた

虎視眈々として 秘謀する無產黨
內郷、好間、湯本方面に 果して結果如何

石城郡下の町村議戰も時日愈々切迫し隨所に激烈な白兵戰が演んしられてゐるが政民兩派が死力を盡して戰つてゐる現狀にあつて今次町村議戰に一大進出を豫想されてゐた炭礦勞働者を背景としての社民、大衆、**舊勞農の** 所謂新興階級を背負つて立つ無產各黨は孰れも平靜水の如きものあり僅に四倉町から大衆黨公認の高木高位君が名乘をあげ戰塵の中に飛込み一流い戰方を以て男々しい戰ひを續けてゐるのみであるが僞最近に至つて常磐地方の無產各黨には町村議戰に對する戰意全くないものとさへ觀られるに至つたが、產各無黨が斯くの如く平靜を持して政民**兩派の激** 戰を傍觀してゐるのは勿論由ある事で殊に勢力最も大なる社民黨の如きは同黨の第一の地盤たる內鄕村に全力を注ぎ必勝を期すため平町、湯本町好間村、磐﨑村等の比較的有望視されてゐる地盤を全部放擲する決意の下に着々戰備を進めてゐると傳へられ大衆黨また同一の理由の下に好間村に全力を注がんとし他を顧みない狀態であるが極左派舊勞農黨には町議戰に對する戰意全くなく拱手 **傍觀の形** であるが此れはメーデーのそこその他の關係からである以上の如く社民大衆兩黨が他の地盤全部を放棄してまで必勝を期してゐるため內鄕、好間兩村下の激戰は今から相像するに難くない

會社が煮い切らず 復た蒸し返し
容易に目鼻のつかぬ 鮫川江筋の復活

石城郡鮫川江筋は昭和五年度に於て總工費四十一萬圓（國庫補助半額）を受縣工事として着工する豫定となつて居るが肝心の鮫川水電の十萬圓問題が未だに行き惱みとなつて居るのでどうすることも出來ず組合側では非常に氣を揉んで居るばかりでなく

同江筋に 六百七十一町江の水田を有する關係町村殊に同池筋復活を前提として上水道設計劃を立てて居る小名濱町は既に後一週間にして商港起工式を擧げることになり起工式と同時に上永道が最も必要となるに拘らず鮫電交涉か行惱みこのまゝでは明年度縣豫算編成期までに解決を見ることが出來ないのではないかと憂慮し若しそれまでに出來ないとすれば又五年度の豫定工事が延期となり兎に角一箇年更に延期となることは江筋關係町村と小名濱町に取つて大きな打擊であると云ふので一般は

交涉の結 果を刮目して居るが今月末日頃までに何とか解決の曙光が見えなければ再び關係町村から强硬論が出て問題の蒸し返しとなりはしないかと見られてゐる

中學校長會
月末磐中に開く

縣下各中學校々長會議は來る三十一日六月一日の兩日平町磐城中學校內に開會せらる

常磐炭礦の貯炭 十五萬噸を突破
更に五分を制限して 貯炭の調查終る

常磐各炭礦では過般の常磐七太炭礦々主會に基き各社二名宛木曜會は一名宛を委員に舉げ出送炭制限の基礎となる各炭礦の現貯炭量の調查を去る七日から行つて居たがこの程全部の終了を見たその結果に依ると常磐炭礦の總貯炭量は十五萬千九百トンに達して居るこれは平常貯炭量より約五萬トン位增加となつて居るのでこの現貯炭量の調節をはかるため目下行つて居る一割制限を更に五分增とし一割五分位の出送炭制限をなすことゝなるのではないかと見られて居るなほ各炭礦の貯炭量は左の如し

入山炭礦	一六、七〇〇
磐城炭礦	三二、七〇〇
古河炭礦	七、三〇〇
三井炭礦	四〇〇
大倉炭礦	二三、七〇〇
磐城無煙礦	三九、三〇〇
大日本炭礦	二八、〇〇〇
福島炭礦	三、七〇〇

護岸工事完成
鎌田方部民安堵

石城郡夏井沿岸神谷村字鎌田地內は毎年の降雨期に入るゝ汎濫する濁水のため農作物は全部流され非常な損害を受くるので平土木監督所では三年度工事として約十萬圓を支出し同川の護岸改修工事に着手して來たがこの程漸く終了を見たので今年からは絕對に水害からは免れるものと同部落民は非常によろこんでゐる

一つ目玉の 大入道
赤井村の怪談

石城郡赤井村日渡居住渡邊運太郎（五八）は去る十五日午後八時ころ同村大倉部落諏訪神社境內を道行中突然運太郎の前に丈餘の一つ目玉の大入道が現れたので膽を潰し一時は驚きの餘り昏倒しさうになつたのを漸く耐へ一目散に自宅に逃げ戾つたがこれがため十六日は口も利けず失神狀態に陷つてゐる同所は時々古むじなが出て惡戲をするとのことで これも古むじなの愛戲ではないかといはれてゐる

高橋氏長逝

元報知新聞平支局主任として在平四ヶ年に及むだ高橋要次氏は一昨二年三月病を得て退社し栃木縣河內郡篠井村の自宅に歸省專ら療養中であつたが去る十五日朝遂ひに長逝したと

踏切改修陳情
木村代議士運動

平町營雪會では平町大工町踏切改修を鐵道大臣に陳情することになり目下調印を求めて居るが本縣選出木村代議士は修修の必要を痛感し地方民の希望を達成せしむるため去る二十一日上京それ〴〵運動することゝなつたので絕望の狀態に置かれた同踏切も一縷の望みを見ね出すに致つた

移動地調查講習
各町村から選拔して 平稅務署で實施

平稅務署では四五の兩年度に於て管內全部に亘り無屆け移動地の調查をなす計劃であるが今月下旬或ひは六月初旬から實施することに決定したこの調查には特に調查員を設置することになり調查員は各町村から募集する方針となつて居るので各町村長に對し希望者及び町村長が適當と認めたものの推選方を依賴するところあつた町村長の推薦者と希望者に對しては來る二十二日から二十五日まで四日間平稅務署樓上に於て土地測量講習會を開き測量方法及地押調查の方法とを教授し全部修得したる者に對し修得證書を與へて正式に移動地調查員とし直に調查に着手せしむる由で講習課目並に受講者資格は左の如し

◇科目

一、土地測量法
二、地租に關する法令の大要
三、移動地申請に關する書類調製の手續

◇受講資格

一、町村吏員で現に土地調查人たるもの又は代書人
二、移動地の申請申告に從事するもの
三、有爲の青年にして將來調查人たらんとするもの
四、地主又は代理人として自己移動地を申告處理せんとするもの
五、其他町村長に於て適當と認めたるもの

時評

難產の平町助役、伏見町長の腹をサンザ痛めて遠藤長誠氏生る

□

區長の選擧運動、新判例に差支ひなしとある、疑義の續出に官民ともに面喰ふ

□

無競爭の僥倖を夢見た平町議候補、定員超過と聞いて俄かに目を白黑

□

當り前さ、そんな無聊郷ではない、憚りながら平町だもの、

□

一つ目の大入道、あたら五十男の腰を拔かす

□

怪物の眞否よりも氣絕した男の事が先に話の種になる

區長は辭さなくも 違反にはならぬ
大審院の判決例もあり 選擧運動の疑義

石城郡下各町村選擧は目下の夫れ〴〵猛烈な運動をつゞけてゐるが此の選擧に際し町村の區村が選擧に推はる事は普選の法令により選擧事務に關係ある **市町村吏員** と認定され選擧運動を禁せられてゐる爲に區長にして選擧の運動をなさんとするには區長を辭職して後でなければ違反に問はれるので現に平町に於て區長中選擧運動をなすものは續々と辭職する爲に徵稅その他の事務に支障を來す有樣であるが最近に至り町村の區長が選擧に關係ある町村吏員と認むるや否やについて疑義を生じてゐるが去る大正十四年一月 **大審院第** 三部の判決令によると「名譽區長は選擧事務關係ある市町村吏員とは認めず」とあり同判決令がその儘となつてゐるので警察署が區長の選擧運動を違反として檢擧しても同判決令から見れば檢事局に於て果して起訴するや否やは疑問であり從つてこの解釋如何は直接今後續々と勃行される町村會議員選擧に關係あるので非常に注目されてゐる

平町立候補 卅二名
更らに三四名 心細い三丁目

平町會選擧立候補者は今十七日までの正式屆出者三十二名にして定員を二名超え更らに四丁目より無理矢理にも猪狩庄平氏を推さんと靑年連が躍起となつてゐるから結局同氏の出馬を見る事となるらしく更らに新川町より、鐵道官舍の一名を加へれば結局三十五名になるらしく來る二十日頃より愈々白兵戰に移らんと戰機漸く熟して來たとの如くである而して平署では苟しくも違反行爲等の絕對にならしむる樣取締りを嚴重にしてゐるが期日の接迫と共に可成り猛烈な運動が開始されるものと觀られてゐる因に本通り一丁目より五丁目までのうち未だに決定せない三丁目は果して如何なる結果に終るか頗る注目されてゐる

坂本氏決意
二丁目候補きまる

一丁目は鷹崎渡邊兩氏絕對に固辭して受けぬ爲め坂本隆藏氏が擁立すべく交涉中坂本氏まだ固辭してゐたが去りとて城明け渡しの嘆を見るも遺憾なりとし極力交涉の結果坂本氏は斷然出馬を承認した

猪狩氏承認
擧町一致で努力

四丁目は候補難に陷り全くのまゝ城あけ渡しの外あるまいと見られてゐたが熱心な區民の辭に動かされ猪狩庄平氏遂ひに出馬の決意を堅め立候補に決した

瀧澤俊平氏
出馬の決意

平町を根據に出馬を傳へられた瀧澤俊平氏は其の後考慮中の處熱心な有志の推薦により出馬の意志を堅め稱々準備中の處各重役の承認も得たものの如く愈々立候補する事になつたらしいが各町內の散票を搔き集めても當選の可能性があるものとの確信らしく傳へられてゐる

平町會議員 候補者一覽
本日迄の屆出分

平町會議員候補者として本日迄で平署に正式屆出をした氏名と年令、職業並に選擧事務長左の如し

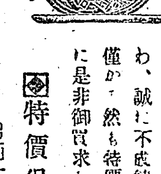
候補者	年令	職業	選擧事務長
宇佐美友二郎	（三三）	藥劑師	同人
野崎滿藏	（四九）	藝妓屋	吉田廣三郎
柳下元吉	（五一）	製板業	會川卯三郎
石山治三郎	（五〇）	建具商	櫛田榮太郎
馬目雅治	（四四）	凍氷販賣業	金子政通
根本品藏	（四四）	米穀商	佐藤源五郎
吉田寅之輔	（四二）	縫紋業	長谷川伊左エ門
吉村安次郎	（四二）	製綿業	尾島應輔
吉田五平	（五三）	材木商	堀喜一
千葉彥治	（三八）	辯護士	酒井喜代正
荒川淺次郎	（四六）	建具商	未定
佐藤岩次郎	（五五）	雜貨商	未定
荒川恒次郎	（五一）	米穀商	青木甚平
齋藤敏貫	（四八）	凍氷販賣業	市井茂三郎
花澤兎五六	（六〇）	農業	叶多鉾治
加納五郎	（六三）	質業	皆川新一
佐々木健一郎	（五七）	請負業	前澤文太郎
櫻井清	（四四）	物品販賣業	同人
國府田直良	（四〇）	藝妓屋	吉田伴吉
高橋龜松	（五〇）	石炭販賣業	宮崎善太郎
大森勇	（四五）	醫師	沼田仙太郎
青沼鉾太郎	（六三）	質業	鈴木廣吉
綠川喜三郎	（三九）	錻製造業	石川武八
荻原義雄	（四二）	齒科醫師	近藤繁治
遠藤林松	（六二）	飲食店	酒井廣吉
佐々木龍若	（四九）	銀行員	松浦貫右エ門
鈴木光吉	（五五）	小學校教員	岡田千藏
井上茂作	（六二）	會社員	石坂詮太郎
馬目武之助	（三九）	染物業	星野清吉
關內正一	（三三）	油漕業	丹野榮三郎
松永友三郎	（四二）	貸座敷業	同人
坂本隆藏	（五三）	紙類販賣業	明智淺吉

春の歡樂に
品質本位の
芳醇銘酒
どうぞ御用命の程願上ます
辰ノ口本家
平窪 松本德一
電話（平）七五二番

五月二十日より
（二階にて）今年の最新流行柄を澤山に取揃へて
中形浴衣地陳列
何卒御來觀の程偏に御願ひ申上げます
◈婦人俱樂部浴衣 ◈家元好み音曲ゆかた
◈都會行進曲浴衣 ◈萬治ゆかた地
◈スター好み一葉ゆかた ◈王章ゆかた
◈名菊ゆかた ◈外十數種陳列
夏物第一回涼味そゝる
最も新しい柄の
絹小紋と絹友仙の會
平町三丁目
三井呉服店

新築移轉
耳、鼻、咽喉科
合津醫院
平町仲田町七一（電話五五九）

生花教授
池ノ坊流 生花を懇切丁寧に御教授いたします、お遊びがてら御出で下さい。
平町十五丁目通り
須藤まつの

學生用腕時計元價提供

時計が無いので學校が遲れたなど、誠に不成績の原因となります僅かで然も特價で求られる此時期に是非御買求を願ます
圖特價保險付品
一クローム 男用十形 女用九形 瑞西製
十五石入腕時計
一金六圓八十錢均一
平三 大谷時計病院
電話一一九番